

『あの人は聖人？』

最近出版された渡辺和子さん（ノートルダム清心学園理事長）の本のなかで、ハッとさせられるコラムに出会いました。「私たちの中には、自分だけが聖人で、他は罪びとであるかのように振る舞う人がいるものですが、その反対もあるということ。つまり、自分は『罪びと』というか不完全で当たり前なのだが、周囲の人々は皆『聖人』でなければならない。したがって、すること、なすこと完全で、私を誤解してはいけなし、私に対して腹を立ててもいけない。私に対していつも笑顔で機嫌よくあるべきだ…なぜなら、あなたは聖人なのですもの。でも私は違う。私は罪びとなのだから、不完全なところがあっても、大目に見てもらうのが当たり前。機嫌の悪い日もあるし、人を誤解するのも当然、という考え方です」。

痛いところを突かれた気が致します。もちろん、相手を文字通り「聖人」だと思って接している人はあまりいないと思います。しかし私たちは、自分のことを棚に上げて、なぜ

牧師 望月 達朗

か相手には完璧な対応を求め、その意味でいつの間にか相手を「聖人」化しているようにも思えます。人は自分に出来ていることを、出来ていない相手に求めているのだと思いますが、その一方で、相手に出来ていることが自分には出来ていないという事実もありますから、結局「持ちつ持たれつ」が人間社会の本質であると言えるのかもしれませんが、ところが、誰しも自分を擁護しようとするので、自分のことは大目に見て欲しいけれど、相手の振る舞い、特に自分に対しての振る舞いは「聖人」のようであって欲しいと願っているものです。

使徒ペトロやパウロは、その宣教の旅のなかで、自分達を伏し拝む人々に対し、「わたしたちも、あなたがたと同じ人間にすぎません」（使徒言行録 10：26、14：15）と厳しく忠告しています。なぜなら、自分たちは神ではなく、故に完璧ではなく、間違えることもあるからであり、ただただ、自分達を通して働く神こそが信頼を寄せるべき確かなお方で

あるという信仰に立っていたからです。ペトロはイエスを見捨て、パウロは教会を迫害してきたという経緯や心の傷を抱えていますから、「人間である以上、誠実に生きているつもりでも間違ふことはある」という人間の分際をよく知り尽くしていたでしょう。自分達自身を100%信頼（信仰）されても、かえって迷惑だったかもしれません。

『あなたは私を信頼してくれているけれども、私は神様じゃないから間違ふ余地があることを忘れないでね』ということと、『私もあなたをほかの人よりもずっと信頼するけど、

あなたは神様じゃないと私は知っているから、間違ってもいいのよ』ということ。』、そういう「ゆとり」が大切だと渡辺和子さんは語っておられます。神様の前に、イエスの十字架の前に、私は「聖人」でなく、そしてあの人も「聖人」ではありません。「正しい者はいない。一人もいない」（ローマの信徒への手紙3：10）のです。ただただ、神が「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」（創世記2：18）という思いで造られた「人間」同士がそこにいるのだと聖書は語り続けています。

～夏の思い出 感想文～

今夏に行われた教会行事に参加された方々に、感想文を書いていただきました

◆7月28日（火）～29日（水）に、吾妻教会にて吾妻教会教会学校と足利教会土曜チャーチ合同の、夏のキャンプが行なわれました。

「たのしかったキャンプ」

川村彩良

私は、足利教会といっしょにキャンプをして、最初に会ったとき思ったことは、人がたくさんいて、いっしょにキャンプできるかなと少し不安になりました。でもゲームをしたりして、少しきんちょうがなくなりました。あそんでいる時もまだ知らない友達と話すことができました。スイカ割りでは、みんなと協力することができました。夜のキャンプファイヤーはとてもきれいでした。ゲームをしたり、歌を

歌ったりしました。

2 日目に川に行きました。とてもきれいな石がたくさんありました。最後にみんな
で記念写真をとりました。教会にもどって木の下でお昼ごはんをたべました。と
てもおいしかったです。

◆8月1日(土)に群馬地区平和集会が行われました。

「群馬地区 平和集会に参加して」 山口 純音

8月1日に行われた群馬地区教会の平和集会、松代大本営跡の見学会に行ってき
ました。安中、前橋、甘楽、桐生東部、吾妻教会から23名の参加でした。

松代大本営は、太平洋戦争末期に今の長野県松代町の象山、舞鶴山、皆神山一帯
20km四方に計画された地下壕等の軍事施設群です。本土決戦の最終拠点として、
皇居やNHK、政府省庁等に移すため極秘で建設され、多くの朝鮮人や松代の地元
住民(小学生までも)が動員されました。日本で唯一の地上戦となった沖縄戦はこ
の松代大本営建設の時間稼ぎだったという話もあるそうです。9ヶ月で8割が完成
していましたが、敗戦になり、使われることはありませんでした。

ガイドの方のお話を聞きながら、象山地下壕の見学コースを歩きました。戦後、
忘れ去られようとしていた大本営跡は、地元の高校生の呼びかけで公開されるよ
うになったそうです。壕内はひんやりとして寒いくらいでした。岩肌がむき出しにな
っていて、削岩用の機械の先が突き刺さったままになっているところや、トロッコ
の跡もありました。現在は管理されているため鉄骨の支えや電灯もありましたが、
それでも歩きにくく、薄暗く、ここで強制労働が行われ、犠牲者もいたのだと想像
すると恐ろしくて、一人では絶対に来たくない…と思いました。

資料館では切削用の機械等を見たり、朝鮮人労働者や、慰安所の話を知ったりし
ました。過酷な労働や、慰安婦の証言が多くあるにも関わらず、国や県で調査する
こともなく、ボランティアの調査に頼っているということを知り、憤りを感じると
ともにこれが日本の現状なのだろうと悲しくなりました。

思ったよりも修学旅行生や観光客、外国の方などの見学者が多くいたことが驚き
でした。

多額のお金と労働力、犠牲をつぎ込んだ末、結局全く使われることはなかった松
代大本営は、戦争の怖さ、無意味さ、むなしさ、馬鹿馬鹿しさを象徴しているよう

なところだと思いました。

◆8月3日(月)～6日(木)にかけて、「東日本ユースキャンプ」が行なわれました。このキャンプは、主催・東日本同信会主催、後援・同志社大学神学教育後援会で毎年行なわれております。今年は吾妻教会から川村美礼さんがキャンパーとして、望月達朗牧師がスタッフとして、参加されました。

「ユースキャンプで感じた事」 川村美礼

私はこの東日本ユースキャンプを教会で先生に紹介していただき、参加させていただく事を決めました。最初は、「1人で東京まで行けるのか」とか、「自分がユースキャンプに行っても大丈夫かな」など色んなことが心配で不安でした。ついにキャンプの日が来ると、その心配や不安はさらに高まり、電車の中で「やっぱり帰りたいな・・・」と正直思っていました。そんな事を思っているうちに駅に着きました。そこでスタッフが明るく出迎えてくださり、少し心が落ち着きました。キャンプ1日目は緊張している中、オリエンテーションがあって、初めてのグループ時間もありました。特にグループの時間では、講演について話し合う事や、グループの人のまだ知らない事を聞く事が出来、緊張しながらも1日目が終了しました。

2日目は、キャンプの主題や講演から、「愛が無ければ人を裁く事は出来ないし、赦すことも出来ない」など、グループで意見を出しあって、夜のスタンツナイトに向けての劇を作っていくことができました。自分達が思っていた事をここまで話し合って深めていく事はあまり無かったので、すごく大切だなと感じました。

3日目は主題講演があり、「赦し」について考えることが出来ました。夜にはキャンドルサービスがあり、キャンパーのお話を聞いて、色々共感することもあって、良い時間を過ごすことが出来ました。

あっという間に4日間が過ぎてしまいました。講演についても色々考える4日間になったし、2日目と3日目にあったアクティビティもすごく楽しくて、新しい友達も出来て、素晴らしいキャンプだな、また来年も絶対来たいなと感じました。

スタッフの皆さん、キャンパーの皆さんお祈りして下さった方々にとても感謝しています。ありがとうございました。

日本キリスト教団 吾妻教会 (創立 1889年5月7日)

〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町 444-9

主任牧師 望月 達朗

TEL0279-68-4730

<http://www5.ocn.ne.jp/~agatu-ch/>

牧 師 望月 奈津子